



AEFA 設立10周年 ～ 第2の創業 VISION

8月2日は、AEFAの1/2成人式＝「第2の創業・記念日」でした。AEFAの仲間の結束の会であり、「10年後に成人となる為の活動VISION」の発表日でもありました。理事長の谷川から、次なる10年の活動方針と決意を発表しました。

- 1) 3層構造理念の建設プロジェクト継続
 - ・年間10校程度の建設＝累計300校目標
- 2) 新しい国での学校建設
 - ・スリランカ・ミャンマーなどに挑戦
- 3) 「もったいないプロジェクト」の立ち上げ
 - ①既設校のメンテナンス事業～学校を育て、見守る
 - ②旧校舎の活用～村人が建設した木造校舎を修復
 - ③復活修復事業～AEFAの建設校以外の、荒廃した学校のメンテナンスと復活
- 4) 自立支援プロジェクトの推進強化

「村の自立」の気運と仕組みを更に前向きなものにする為に、特産品プロジェクト（一村一品）を開発。魚の養殖、村ブランドのコーヒー、薬草作りなど。更に、青年教育を通じた農業技術力アップ、日本のシルバーボランティア活用など様々な面から支援。

- 5) 先生を育てる
 - ①教員養成奨学金
村出身の先生を養成＝累計100人の先生養成
 - ②不足教師の追加雇用・・・僻地では教師の不足が慢性化している。産休先生制度を立ち上げ。
 - ③教員研修会を一層強化し、教員の指導力とモチベーションを増幅する。
 - ④優秀な小学校教師を選抜、教員養成短大でさらに勉強を続け、中学校教師の資格を取得する。
- 6) 日本の子供たちの為の活動の充実
 - ①出前授業・交流事業推進＝累計 目標1000回
 - ②学校以外との交流：
不登校児童施設、私塾、老人ホームなど
 - ③現地の日本人学校と共同プロジェクトを推進
例えば、ホーチミンでの子供サミット開催
 - ④10校のワンコイン・スクールを建設
 - ⑤スタディツアー
学生向け、孫を連れての熟年ツアー企画・開催

AEFAは、これからも皆様の「出会いの場」、活動参加の「プラットホーム」として機能していきたいと決意を新たにしています。

ひとこと

理事長のひとこと

1/2成人式を迎えて

AEFAは学校建設と国際交流という2つの事業をしてきました。学校とは校舎と言う箱ではありません。学ぶ仕組みと環境です。生徒、先生、親、村人、行政により総合的に成り立つものです。だから私たちAEFAは箱物プロジェクトではなく、これらの関係者と総合的、合理的、そして心で結びつき、協力し合ってプロジェクトを推進してきました。

その基本的骨格が3層構造であり、「共に作り、育て、見守る」です。これらの理念と仕組みを推進するには、3つのパートナーとの信頼関係が必要です。

第1に、現地NGOとの信頼関係です。今やパートナーと言うより、「ファミリー」「兄弟」関係にまで深まりました。

第2に、支援者との信頼関係です。「日本のビッグパ、ビッグママ」を生み出してきました。開校式では、一緒に歓びの涙を流しています。

AEFAは「嬉し涙製造所」です。

第3に、日本の学校との信頼関係です。発足当時は、交流校探しに本当に苦労しましたが、昨年度から東京都教育庁の紹介で、年間40校以上が出前授業

を希望してきています。この10年で360回の授業を実施しました。将に、信頼関係が確立したと言えます。

アジアの子供たちにとって、学校建設は教育環境の大改善であり、交流事業は外の世界とのつながりを学ぶ機会です。

しかし、交流の真の受益者は日本の子供たちです。「命の大切さ」「教育の大切さ」「心の豊かさ」などを学ぶ気付き学習のお手伝いをしてきました。

アジアの子供たちの健気で逞しい生き方と笑顔を届ける「笑顔の宅急便」です。そして、交流とは「心のリレー」。AEFAは「思いやりバトン」の届け役です。

こうした3つの信頼関係を基礎にして、一方通行ではない、双方向性を持つ海外支援プロジェクトを継続することが出来ました。

その背景には、必要なときに必要な人との出会いがありました。将に、時が満ちるのです。

新たな一步を踏み出したAEFA。これからも皆様との出会いを大切に、一層邁進して参ります。

(理事長 谷川 洋)



ベトナムのNGOスタッフ・フンさん、ラム校長先生来日 8校で出前授業／日本の給食、掃除活動に感銘

2014年7月7日から12日まで、ベトナムのNGOサイゴン・チルドレン・チャリティーのスタッフのグエン・ホアン・フンさんと、AEFAの建設したタンホアA小学校のブイ・ヴァン・ラム校長先生が、福井県、東京都、埼玉県の8校の小学校を訪問しました。

日本の学校の子供たちの授業、掃除を視察。給食と一緒に食べる機会もありました。

訪問した学校では、民族衣装のアオザイを着て、映像を紹介しながらベトナムの子供たちの生活を伝える授業を行いました。日本の子供たちも、フンさん、ラム先生

のベトナム語に興味深そうに聞き、時には英語でフンさんたちと言葉をやりとりすることもありました。

また、福井県と東京都では、日本の学校の先生方との教育懇談会も行われ、滞在中に、フンさん、ラム先生が感じたことを発表されたり、ベトナムと日本の交流の意味を考え、日本とベトナムのそれぞれから学べることなど意見交換を行いました。

この6日間は、フンさん、ラム先生にとって、そして日本の学校にとっても有意義な時間となりました。

◆本事業は、三菱UFJ国際財団様の助成で実施しました◆



◆◆◆日本の先生方との教育懇談会◆◆◆

フンさん・ラム先生と日本の先生方が一堂に会し、顔が見える直接の交流・情報交換が活発に行われました。

◆ベトナムNGOスタッフ グエン・ホアン・フンさん◆

日本の学校は衛生環境が優れ、プールや体育館などの設備が整っていることに驚きました。日本の子どもたちはコミュニケーション能力が高く親切で、ルールを守った自然な行動ができることが印象的でした。

◆現地校長 ブイ・ヴァン・ラム先生◆

日本の子どもたちが清掃活動や給食活動などで、責任を持って自分の仕事に取り組んでいる姿に驚きました。日本の学校と交流することにより、ベトナムの子どもたちは意識が変わり、一生懸命勉強するようになりました。ベトナムでは、美しい文字を書けるようになることに力を入れています。きれいな字を書くことは、子供の内面もきれいな人になると考えられているからです。

◆日本の先生方より◆

清掃や給食など、日本では当たり前と思ってやっていることが、海外では評価されていることもある、と分かり驚きました。アジアの学校と交流することにより、本当の豊かさ、幸



7月8日 丸岡中学校にて14名参加



7月12日 芝小学校にて22名参加



坂井市立三国北小学校(福井県)



鯖江市立河和田小学校(福井県)



坂井市立平章小学校(福井県)



坂井市立丸岡中学校(福井県)



勝山市立成器西小学校(福井県)



勝山市立村岡小学校(福井県)



大野市立乾側小学校(福井県)



さいたま市立植水学校(埼玉県)



支援者の方々と

児童の感想

◆平章小学校 2年生 高しま りょうたさん

これからは、ものをだいじにして、たべものもおなかいっぱい食べられることにかんしゃしてたべます。これからは、もっとべんきょうをして、大人になったらせかいのやくにたつしごとがしたいです。ベトナムのいろいろな小学校の子どもたちのために、これからへいしょうキッズバザーやいろいろなぎょうじでお金をきふしたり、ぶんぼうぐをきふしたいです。そして、ベトナムの子どもたちにこまやけん玉をさせてあげたいです。そしてベトナムの子どもたちと友だちになりたいです。

◆平章小学校 6年生 山田 葉月さん

出前授業でダックロオン小学校などのベトナムの小学校のことが良く分かりました。一番うれしかったことは、ダックロオン小学校の教室が新しくなったり、黒板が1人ずつもてるようになったことです。平章バザーで集めたお金が実際にダックロオン小学校で使われていることを知って、ますますうれしくなりました。本当に私たちは勉強などの環境にめぐまれていると思いました。11月にバザーがあるので、バザーに行ってもっともっとダックロオン小との交流を深めて、もっともっとダックロオン小学校の子たちと仲良くなりたいです。

◆三国北小学校 3年生 池端 凌生さん

ベトナムの子どもたちの登校が、どうぶつにそうぐうしたりして学校に行くまで、とても苦ろうしてるんだと感じました。ゆめに向かっていくこどもたちのゆめが、かなったと言っていたので、ぼくもゆめに向かって、べんきょうして、目ざしているゆめをかなえたいです。

◆三国北小学校 4年生 森 美月さん

ベトナムの小学校の子どもたちの字がとてもきれいだったので私も、もっと字をきれいに書こうと思いました。それと、ベトナムの子どもたちを写真で見たとき、とってもよくお手つだいをしているので私ももっと家のお手つだいをやろうと思いました。



市民の方々の募金・学校建築・開校式参加 ～静岡県袋井市の取り組むワンコインスクールプロジェクト～

市民の募金で、890万円が集まる

原田英之袋井市長をはじめ、30名が開校式に参加



昨年が、日本とベトナム外交関係樹立40周年の記念であったこと。100年もの昔から、ベトナム独立運動家のファン・ボー・チャウと袋井市の郷土の医師浅羽佐喜太郎との交流があったことなどをもとに「平成の浅

羽佐喜太郎になろう」として呼びかけられた募金活動には、地元の企業や個人の方々から890万円の募金が寄せられていました。

その学校建築を委託されたAEFAでは、実行委員会と協議しながら、建設校を中部高原クアンナム省のヒェップドック郡フックチャ村のレ・ロイ小学校に決め、建築を進めてきました。レ・ロイ小学校は、6年前の台風で校舎の屋根が吹き飛んだり、教室も不足して2部制授業であったり、恵まれない学習環境を強いられていました。



国内ではじめて市町村の行政が関わり取り組まれた「ワンコインスクール・プロジェクト」の開校式には、原田市長ご夫妻、兼子春治市議会副議長、下山好治実行委員長をはじめとして28名の市民の方々が参加。原田市長も一緒に市民みんなで「上を向いて歩こう」を合唱したり、ドラえもんのお面をかぶったり、着ぐるみを着てベトナムでもよく知られたドラえもんの歌を披露しました。



現地行政でも2教室を追加建築



開校式の前日、準備と確認のため現地を訪問すると、坂をあがって正面の旧校舎は見違えるようにきれいになっていました。しかし、いくら探しても、3教室の校舎が見つからないのです。すると、そのすぐ脇に2教室が別棟で追加された合計5教室の新校舎が建っているのです。校地の広場では、開校式用のテントが組み立てられていました

日本の袋井市民が募金をして建設してくれるのだから、クアンナム省としても、何かをしなればということと、新しく2教室の校舎が追加になったのだそうです。

このときはじめて、「呼び水効果」と「3層構造理念」の2層目、「村人参加・行政参加」の二つの意味の大切さを改めて実感しました。

袋井市の子どものメッセージと作品の紹介 そして、おいしいランチ



高南小学校の作品を紹介

集めなどでお金を集めました。一緒に新しい学校文化を創っていきましょう。」というメッセージが紹介されました。

9時半に始まった開校式、交流活動も一段落して、お待ちかねの昼食。ベトナムにはない、学校でのお昼ご飯です。テント下に用意されていたのは、レ・ロイ小学校の子供たちがこれまでに見たこともないようなご馳走でした。食べ始める前から、どれから食べようかと、料理の数々に釘付けの子供たちの姿がありました。





袋井市 出前授業 小学校10校、中学校3校 ～レ・ロイ小学校の開校式へ向けて～

袋井東小学校では、さっそく、支援活動を開始

袋井市の支援によりレ・ロイ小学校の建築が決定して最初の出前授業は、袋井東小学校でした。

5月23日(金)
2校時に学校へ伺うと、6年生57人が輝く目で待っていてくれました。

集会室でベトナムの山奥の子供たちの暮らしの様子や学校の様子を話すと、「かつもく委員会」の子供たちが中心となって、学校全体でさっそく支援活動として支援物品集めや募金活動に取り組んでくれました。

その結果、消しゴム95個、ノート98冊、鉛筆601本、募金3571円が集まりました。



真剣な眼差しで話を聞く袋井東小の児童

受験勉強の心の支え・・・周南中学校3年生

- * 6月に出前授業で訪問した周南中学校では、3年生188名が武道館に集まってくれました。
- * 中学校3年生にとっては、中体連も終わり、いよいよ受験勉強にとりかかる時期です。そうした時期に、このベトナムの山奥の子どもたちの生活を知ることやレ・ロイ小学校を袋井市として支援することに、どんな意味を見いだすことができるのか心配になりました。
- * しかし、出前授業が終わったあと、女子生徒の代表から、「今日のお話で、私たちが、日本で、そして袋井市で、どんなに恵まれて育ち、生活しているかがよく分かりました。自分たちで進路を選べること、努力して進路を決定出来ることが、どんなに幸せなことが、よく分かりました。これからの受験勉強の大きな心の支えとなりました。しっかりと勉強して、将来、社会で役に立てる、世界に羽ばたける人になれるよう頑張りたいと思います。」とのお礼の言葉がありました。



袋井南中学校での出前授業、1年生171名



8月22日のレ・ロイ小の開校式には、参加された方々が持参してくださり、開校式でレ・ロイ小学校の子供たちに配られ、大喜びされました。

(文責: 宋戸)

AEFAもったいない!! プロジェクト!

使える校舎は手直して、より良い校舎に。
建設した校舎も、修繕しながら、より長く使っていく

修繕前



修繕後



10年間学校建設を行ってきたAEFAは、アジアの各地で支援の様々な実態を見てきました。

環境や資材の問題から20年で老朽化してしまう校舎、まだ使える校舎を壊して、新しい教室を作って欲しいという要請など。

ベトナムで最初の建設校のパカン小学校(2005年)

では、建設9年目のとき、学校と村人が、大々的な修繕を行いました。壊れた窓ガラスを入れ替え、壁を塗り、屋根を張替え、柱の綻んだ箇所を直し、新しい校舎と見違えるまでになりました。

10年で手を入れることで、更に長く、校舎を使っていくことができ、校舎を維持することができます。

今後は、新しい建設のときも、またこれまでに建てた校舎にも、この日本の『もったいない』の価値観を取り入れたプロジェクトを進めていきたいと思っています。

修繕前



修繕後





皆様に支えられて… AEFA 10周年 & 出版記念パーティー

皆様のお気持ちと想いに支えられ、AEFAは先の6月15日に創立10周年を迎えることができました。10年間の歩みをまとめた本「輝く瞳とともに」(11ページ参照)の出版と合わせ、8月2日に記念パーティーを開催いたしました。

当日は、関係者やそのご家族やお知り合いなど、150名を超える大勢の方々が集まってくださいました。そして、活動を支援してくださっているドナー様、出前授業やスタディツアーを経験した交流校の卒業生たち、交流校の保護者や先生方が、活動を通して感じた熱い思いなどを披露してくださいました。

AEFAを支えてくださる方々



エルセラーン1%クラブ
左から、城戸様、竹越様



(株)近江兄弟社
取締役 商品本部長 辻様

10周年記念本「輝く瞳とともに」



右から、共著者：石井克則様、かんき出版副編集長：谷英樹様、編集：ラクシュミー・佐藤千恵様

共感してくださる方々



ピアニスト 梯 剛之(かけはし たけし)様

共に活動してくださる方々



ボランティアさん数名を含む実行委員会が、パーティーの企画・運営を行いました。

東京都港区立芝小学校
保護者 吉田 絵美様
3年生 吉田 茉莉さん

「子どもたちにクラシックに親しむきっかけをつくって、音楽の素晴らしさをもっと知ってもらいたい」と活動されている梯さんが、AEFAの活動に共感し、素敵な演奏を披露してくださいました。折しもこの日は梯さんの誕生日。AEFAの10歳の誕生日と、梯さんの誕生日を、会場全体でお祝いしました。



AEFAの卒業生

初めて私がラオスという国を知ったのは、小学校の4年生時の総合学習で、当時の担任の先生であった小松光恵先生の話からでした。

先生は「ラオス」という国の人々のことをたくさん私たちに教えてくださいました。それまで、ラオスという国がどこにあるのかさえ知らなかったのが本当のところでした。そして、外部からもラオスのことについて詳しい講師の先生などと呼んでくださいました。当時の私が、「ラオス」という国について関心を持ち始めたのは、その講師の先生に来ていただいた後のことだったと記憶しています。地図帳や地球儀で見たり確認したりしました。

ラオスという国の事情を知り、当時の私が考えたことは、単にかわいそうといった感情だけではなく、悲惨すぎるといったものだったと今回改めて思いました。中でも、記憶に鮮明に残っているものがあります。

それは、先生が見せてくださったある1枚の写真です。その写真に映っていたものは倉庫でした。その倉庫は木で建てられていましたが、私はその建物の基礎の柱として使われているものを見て驚愕しました。使用済みの爆弾の薬莖が使われていたからです。このとき私が感じたことは、「ラオスの人たちのために、同じ子供たちのために、何か自分ができることはないだろうか」ということでした。

私達は学級で互いに意見を申し合いました。その意見の一つにあった「文房具を送る」というものが採用されることになったのです。

それからは、家にあるもの、地域の方々の協力をもって本当にたくさんの文房具を集めることができました。その集めた文房具を校長先生がラオスに送り届

福島県東白川郡矢祭町立東館小学校 卒業生 郡司 英彰さん



けてくださり、その後、ラオスの子供たちからは、自分達が送った文房具とともに写真を撮影し、その様子を伝えていただきました。

そのときのラオスの子供達の笑顔は忘れられません。自分達にしては当然のようなことで、こんなに喜んでくれるとは思ってもかけなかったことだったからです。

文房具を送った経験から、私はあることを学んでいました。私達日本人にとっての「当たり前」は、他の国では必ずしも当たり前のことではないと、いうことでした。

そしてラオスは日本の戦後の姿でした。自分達は本当に恵まれていることに気づかされました。事実、世界には数多くの日本とは異なった点があります。それを理解し受け入れていくことこそが、大事なんだと改めて思いました。

ラオスについて学び、活動をして6年が経っています。このささやかな活動の経験が、今の自分にとって、とても大きな指針を作り出す、ひとつのきっかけになったと思います。テレビや新聞の情報を見たり聞いたりしても、日本とは違う国があること、今でも紛争の地域があること、そういったことに関心を持つようになりました。私は将来、ラオスのように恵まれない、貧しいといわれる国の人々が、戦争などの理由で怪我を負った人々を助けるために何か活動をしたいと考えるようになり、「国境なき医師団」の一員になることを目標としています。世界の人々の役に立ちたいという気持ちをもって、これから行動していく、これが、私が今後すべきことだと心に誓っています。



「AEFAソング」を皆様と一緒に



南大谷小学校・西岡校長



交流作品やAEFAオリジナル教材の展示



Cocoro Care for Children
左から、井上先生、出口先生



「ちくめい」作品や、イラストレーター・かとうゆーこさんの絵はがきなどの展示販売も盛況でした。



福島県相馬郡飯舘村
菅野村長

AEFAの卒業生

静岡英和女学院在学中、第一回・第二回のタイ・ボランティアツアーへの参加したことは、私の高校生活をとっても意味のあるものとしてくれました。

当時高校1年生だった私も今は24歳になり、あれから8年もの年月が過ぎたことに驚きを覚えます。中学生の頃から、国際交流や世界平和、海外ボランティアに深い関心を持っていた私にとって、実際にタイの山岳民族カレン族の村で、ホームステイを通じて彼らの生活に触れることが出来たことは、大変貴重な経験となりました。人生初めてのホームステイが山奥で、高床式住居で寝食を共にし、朝は鶏の声で目覚め、バナナの葉にごはんを包んだお弁当を持って出かけるという体験をしたことのある高校生は、あまりいないのではないのでしょうか。

10代の多感な時期に、そのような機会に恵まれ、日本とは全く異なる生活をする人々の笑顔に出会えたことは本当に有り難いことでした。

当時の体験を改めて思い起こしてみると、今の私の在り方に大きな影響を及ぼしていることは明らかです。静岡英和高等学校を卒業した後は、開発学を学んでみたいという思いと『もっと色々な世界をみたい、海外留学をしたい』という思いから、国際系の大学へ進学し、ノルウェーへ1年間の交換留学をしました。大学時代には国際協力に取り組むサークルなどに参加し、タイのフェアトレード商品を買いに現地へいき、学祭で販売したり、フィリピンへのスタディツアーを企画・実行したり、ネパールの学生NGO団体と協力し孤児院の支援や街の環境改善活動に取り組んだり、と新たな出会いと様々な経験を得ることが出来ました。

一方で、『開発とはなんだろう』、『本当に日本のような“開発国”になることに意味があるのか』と思い始めるようにもなりました。必要最低限のものを得ることの出来ない人々と必要以上のものを享受している“先進国”の人々が搾取し搾取される関係。そういった偏った関係性から抜け出し、真の共存関係



静岡英和女学院高等学校
卒業生 左:杉山 真里菜さん
(代読:右:卒業生 栗林(旧姓 薩川)美咲さん)

を築き、持続可能な社会を形成することが出来るのだろうか、そしてそのために自分は何がしたいのか、と。

未熟な学生なりに悩み、考え、その中で自分が選択したのは、『環境』でした。限られた資源を取り合い、争うのではなく、有限である環境から、お互いに利益を得、次世代につないでいけるかということが、私の中でようやく定まったように思います。

思い返してみれば、タイ・ボランティアツアーでも自然と共存する村人たちの生活に感銘を受け、それと同時に以前は村になかったビニール袋のような自然に還らないものが村に入ってきて、村人は自然に還るものと思って捨てて、村の環境が悪くなっていることを知ったのは、ショックなことでした。

帰国後、『環境への意識を少しでも向上させよう』という思いから、静岡英和女学院で牛乳パックの回収活動を始めたりしました。その時から人と人、そして人と環境が共存する社会を、というテーマが私の中に芽生え、まさに行き着く先に戻って来た、という感じです。

この夏からは再びノルウェーの学校にて国際環境学のマスターコースを取得し、環境政策やリソースマネジメントについて学ぶ予定です。

10代の経験があったからこそ、私は今ここにこうして立っているのだと強く感じます。そのような機会を与えてくださった方々に、心から感謝申し上げたいと思います。

アジアからのメッセージ

ラオスの現地NGO・ACD
代表 ブアラペ・チュンタボン(ノン)さん

サバイディー（こんにちは）。時が過ぎるのはとても早いんですね。AEFA10周年、おめでとうございます。しみじみ思うことはACDとAEFA。私自身とAEFAは、とても身近な存在です。パートナーではなく、“ファミリー”です。

わたしたちの絆はとても強く、これからもAEFAと共に、長く永遠に・・・協力し合えたらと思います。ACDはちっぽけなNGOですが、いい協力関係をAEFAと築いています。AEFAは、ACDと活動する唯一の団体ではありません。でも、AEFAは、わたしたちの友人なのです。私たちは共に助け合い、これからも長い間、一緒に活動できることを信じています。

AEFAをはじめとして日本の友人のみなさんが、私に大きなエネルギーをくれるのです。

みなさんの家族は、日本だけでなく、ここ（ラオス）サラワンにもいます。わたしはもっと元気になって、ACDがこの先も長く活動を続けられるよう頑張ります。みなさんもぜひ、これからも支援をお願いします。ACDを通じて、みなさんはラオスのたくさんの子供たちをサポートしてくださっているのです。

幸運を！10周年、本当におめでとうございます！



フレンドシップ校の先生

熱い思いと指導力を持ったリーダーに

多忙化解消とは名ばかりで、年々多忙化は進み日々疲弊している職員が増加傾向にあるのは学校だけではないと思います。そんな中で、AEFA等の新しい取り組みをするとき、全職員の理解と協力が必要不可欠です。全職員の心をゆさぶり、説得し、やる気を起こさせるのはもちろん、組織のリーダーです。AEFAに対する熱い思いと強い指導力をもったリーダーが必要です。

交流・支援の活動を継続していくための一工夫

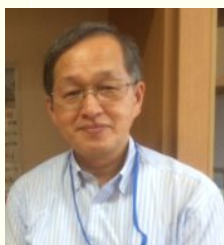
昨年末12月24日、福井の丸岡（谷川理事長の出身地）で「AEFA福井フォーラム」を開催、50名強の参加者を得て「つなげよう 広げよう」をテーマに情報交換を行いました。担当が変わったら、交流・支援活動が途絶えてしまうようなことのないようにしなければ、と考えた訳です。お陰様で、このフォーラムで丸岡町内8つの小・中学校すべてがAEFAとのかかわりを持つに至りました。

フレンドシップ校の保護者

「私は平成20年5月よりお付き合いをさせていただいています。当時、子どもの通う仙台市立広瀬小学校がマンモス化したために次年度には学校分離が決まっており、大々的に「思い出フェスティバル」を開催することになりました。行事は無事終了しましたが、「その収益で何をやる？」という命題が残されたのでした。日本では教育環境が守られ、人数が増えれば新しい学校が作られるということは比較的やすい、しかし、世界に目を向けたらそれはどうなのだろう？ 同じ世代の子どもたちの置かれている状況を知らずに、ただ守られているだけで良いのだろうか。私はもっとグローバルなことを考えられる子どもたちになってほしい、そんな思いから海外への学校建設状況についてネットで調べる中で、「ここだ！」と確信したのがAEFAでした。しかし役員会議では、反対意見も多かったのです。「なぜ海外に学校建設なの？」「新しい小学校に遊具提供などではダメなの？」と。多くの議論が尽くされ、結果、ワンコインスクールプロジェクトという形で、このプランはようやく進むことになったのでした。」（澤村様 メッセージ）

フレンドシップ校の先生

宮城県仙台市立広瀬小学校
河原木 美智也 校長先生



本校では、ポンタン小学校との関係について、展示パネルなどで紹介をしながら継承しています。

この「『子どもたちの行動と力で』ラオスに学校を創ろう」という、「ワンコイン・スクール」プロジェクトが本校からはじまったことを誇りに思います。

現在、直接携わった子供たちは中学生です。その思いを受け継いでいってほしいという願いから、本校の開校記念式や朝会の校長講話等の場で紹介しています。

海を渡って行き来した「こいのぼり」も、学校で泳がせることができました。

福井県坂井市立平章小学校
青木 信益 前校長先生

自分自身を振り返る機会を 子どもに届けたい

「ええっ！ えーえっ。」「うっそー。信じられん。」このような驚きと「すごい。」といった感動が連続するAEFAの出前授業は、1年にたった1回だけのものではあっても、子どもたちの心の奥底に響き、自分は恵まれている、幸せだと実感するようです。そして、ラオスやベトナムの友達が厳しい環境の中でも目を輝かせ真剣に学んだり、家族の一員としてお手伝いを頑張っている姿に心をふるわせ、自分たちに何かできることはないだろうかと真剣に考える機会となっています。まさしく、自分自身を振り返る機会となっているのです。

これからも、末永く活動を続けていただくことを心から切望いたします。



宮城県仙台市立広瀬小学校
保護者 澤村 範子様
（代読 元校長 菊地 修治先生）

（菊地修治先生より）「仙台、広瀬の里に、AEFAの理念は細々ながら息づいています。広瀬小学校の河原本校長先生からも本日、思いを受け継いでいきたい旨のメッセージが寄せられました。広瀬小や愛子小で今後もポンタン小学校が想起され、教材として生き続けること、そしてAEFAが20周年30周年と回を重ねることを祈念する次第です。

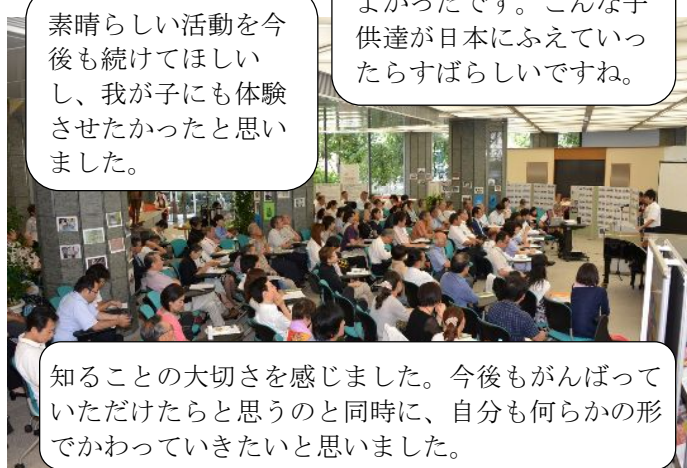
AEFAがやっている交流は、満たされすぎている日本の子どもたちに警鐘を鳴らし、『自分自身の今を見つめこれからの自分を考える』貴重な機会になっています。今後も微力ながら御力添えをさせていただきたいと思っております。」



参加者の声

素晴らしい活動を今後も続けてほしいし、我が子にも体験させたかったと思いました。

卒業生のスピーチが特によかったです。こんな子供達が日本にふえていたらすばらしいですね。



知ることの大切さを感じました。今後がんばっていただけたらと思うのと同時に、自分も何らかの形でかわっていきたいと思いました。

◆◆ 広げる・支える 新しい動き ◆◆ ボランティアさんたちの活動

◆ちくぬいボランティアグループ

ラオスの手織り布を活用して、日本のちくぬいボランティアさんたちが素敵な小物を作り。その売上を、ラオスの少数民族の子どもたちが教員となるための奨学金に、寄付していただいています。現在、常設展示や他でも販売。バザーでもご協力いただき、子どもたちの大きな支えとなっています。

ボランティアさんの声 太田麻里さん「好きなことをやっていたら貢献できる、ということが氣にいらいます。」



◆未来FES AEFAの活動を支える会

未来に向けた、さまざまな人の活動を応援、「人・物・金」のあらゆる要素を有機的につなげていきます。クラウドファンディングで、未来のイベント・プロジェクトをみんなの力で現実化。



全国の思いや志を共にする方々を経絡のようにつなぎ、AEFAの活動をサポートする仕組みをとともに考えてくださっています。これからの動きに目が離せません！ぜひご参加ください。

株式会社デジタルメディア研究所内未来FES事務局

◆出前授業交流茶話会

東京都教委からの紹介で、AEFA出前授業に参加した学校の先生方や、交流校の先生方が毎月第三土曜日に集合。世界を知るための国際授業や、アジアとの交流について情報交換したり、おしゃべりしたり、時にはお悩み相談会になることも。。。先生方をつなぐ場となっています。

AEFAの交流や出前授業に興味のある先生・会員さん・ボランティアさん、どなたでも大歓迎です。

◆AEFANS 盛り上げ隊

「10周年記念パーティー実行委員会」をきっかけに誕生！ユニークで新しいアイデアと企画で、AEFAの仲間を増やし、活動を広げる場です。



「楽しい」ことがいちばん！をモットーに、アジア料理を楽しんだり、時には趣味の話で盛り上がったり…。ご興味のある方はどなたでも大歓迎！

お友だちもお誘いあわせの上、ご参加ください。
お問い合わせはAEFAまで。

◆AEFAサポーター 関西の会

関西初！関西発！AEFAの活動に賛同し、サポーターの会(任意団体)が発足しました。(代表：柴野直樹さん&宮崎克也さん)

「顔が見える」ことがAEFAの大きな特徴ですが、事務所 左) 柴野代表 右) 宮崎さんは東京のため、関西方面ではなかなか機会がありませんでした。

関西のご支援者様が aumentando することもあり、また活動を広げるためにも、AEFAとの協働で様々な集いやイベントを企画しています。

※11月1日 京都未来フェス2014参加します。

HP: <http://kansai-nippon-aeafa.jimdo.com/>



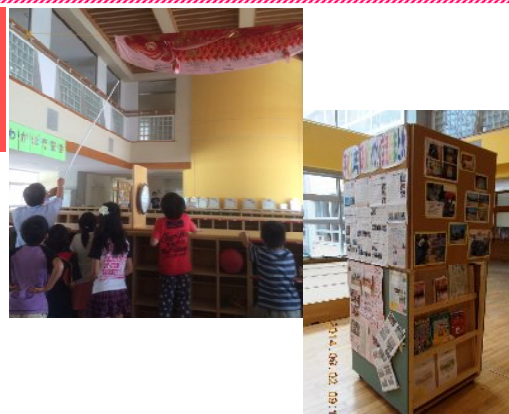
友情の証のこいのぼり 世界を旅して里帰り！ ～仙台市立広瀬小学校～

2009年、仙台市立広瀬小学校が思い出フェスティバルの収益金をAEFAに寄付してくれたことを皮切りに、その他いくつかの学校と協力のもと、ラオスのポンタン小学校が建設されました。その活動を通じて、広瀬小学校のPTAの方から頂いた鯉のぼりは、東日本大震災の際に日本を応援してくれたアジアの子供たちのメッセージや、それに対して日本の子供たちからのお礼の言葉を乗せて、日本とアジアを旅していました。



そして、その鯉のぼりがついに、2014年子供の日、に、広瀬小学校に里帰りし、子供たちに歓迎されました。

←ポンタン小の様子を給食の時間に校内放送でお届け



左：河原本校長先生が長い棒で、安倍首相のサインの位置を教えてください！

右：交流の歴史や、ラオスに関する本専用の手作り本棚



日越友好40周年記念を経て ～ベトナムと日本の共同交流作品～



2013年は“日越友好年（日本-ベトナム外交関係樹立40周年）で、政府間でも民間レベルでも様々な交流事業が行われました。長年交流を続けている日本とベトナムのフレンドシップ校同士の子供が、同じテーマで1つの作品を作り上げ、交流の記念とするプロジェクトを行いました。大きな模造紙に、同じテーマで半分半分絵を描き、一つの絵を完成させた子供たちの間には、お互いの国に、より深い興味を持つきっかけとなったり、文化や背景は異なっている、共通点を見つけ、繋がっているという感覚が芽生えています。



『私たちのふるさと』

左：ダックロオン小 &
右：福井県平草小

『私たちの国の行事/お祭り』

左：ルオンテーヴィン小 &
右：昭和女子大学附属昭和小



★福井県平草小学校 こどもたちの感想★

◆川、家など色の塗り方が、何色も重ねて塗っていたので、驚きました。

◆とても鮮やかな色使いだったので、見ていて明るい気持ちになりました。

◆大きなヤシの木が描かれていたので、きっとベトナムは暑い国なんだろうと、思いました。

★ご担当 木村先生の感想★

交流作品を見た子どもたちは、まず「うわ～！！」と大きな歓声をあげていました。そして、絵を手にとりじっくり見入っていました。また、自分たちの作品作りの時には、「この川の色いい、まねしてみようかな。」「僕たちの絵はどうする？」「やっぱり、ぼくたちが住んでいる日本、福井のことが伝わる絵がいいよね。」などと、つぶやく子どもたちの姿がありました。たった1枚の絵でも、異文化を知ると同時に自分たちの住んでいるところについて知ってもらいたいという子どもたちの姿を見ることができ、大変良い機会を与えていただいたと思っています。



AEFA出前授業

5月	江戸川区立西葛西小学校教育講演会（21日）	他7校
6月	袋井市小中学校出前授業週間8校（9～12日）	
	江戸川区立西葛西小道德地区公開講座（14日）	
	あきる野市立屋城小道德地区公開講座（20日）	他14校
7月	福井県小中学校現地NGO・校長招聘交流授業 出前授業週間13校（7日～11日）	他3校
9月	武蔵村山市立第八小道德地区公開講座（13日）	
	袋井市小中出前授業・開校式報告7校（16～18日）	
	オリンピック推進校出前授業、狛江第二中（25日）	他10校
10月	ラオスNGO招聘授業大岡小（22日）、武蔵村山第十小（23日）	
	宮城県水産高等学校文化祭基調講演（24日）	
	武蔵村山市立第七小学校道德地区公開講座 （ラオスNGO参加）（24日）	他9校

AEFAからのお知らせ

◆ベトナム担当の楠山紀子（8月末）と、山田梨絵（11月末）が出産のため退職。
「みなさまとお目にかかることを、楽しみにしています！」

◆AEFA Facebook はじめました！
みなさまからの、「いいね！&コメント」をお待ちしています。

◆12月 タイ・ファイコン中学校の生徒が来日。「いわき生徒会長サミット」の活動実践報告会に参加します。

◆「輝く瞳とともに」購入をご希望の方は、AEFAまでご連絡ください。

輝く瞳とともに アジアの途上国に学校を作った人たちの物語

10年間の歩みを、1冊の本にまとめました。様々な形で活動を応援して下さる方々の思いや、アジアの現場の声&現場の空気がつまっています。「プロジェクトにたくさんの人が関わって、つながっていることがわかった」「一気

に読みました」との声。
共同編著者は、石井克則氏。
出版は、かんき出版様のご厚意により実現することができました。かんき出版様からは、ラオスに教科書のご支援も頂いています。



◆ AEFA往来 2014.4～2014.10 ◆

- | | |
|------------------------------|----------------------------------|
| 4月 ● 第1回出前授業交流茶話会 (19日) | 8月 ● AEFA設立10周年記念、出版記念パーティー (2日) |
| 6月 ● 関西支部発会懇談会(14日) | ● NPO全海研・全国大会 講演 (8日) |
| ● 第2回出前授業交流茶話会 (21日) | ● ベトナム・クアンナム省レ・ロイ小学校開校式 (22日) |
| 7月 ● 福井県小中学校ベトナムNGO・校長招聘交流授業 | 9月 ● ベトナム・クアンナム省パ・タン小学校開校式 (4日) |
| 出前授業週間 (7日～11日) 13校 | ● ベトナム・トゥエンクアン省ソイチン小学校開校式 (6日) |
| ● 国際理解教育懇談会(12日) | 10月 ● ラオスNGO招聘、交流授業 (22～24日) |

ベトナム エルセラーン1%クラブ様 2校開校式

◆ パタン小学校
サトゥオン分校
佐藤満江キャプテン様

9月5日、中部のクアンナム省で、エルセラーン1%クラブの皆様と一緒に開校式をお祝いしました。「開校式では感動し、涙がこみ上げてきました。子供たちも自分の意見をしっかり持っていて、前途有望と思いました。子供たちの将来が楽しみです」と、佐藤キャプテン。子供たちも竹トンボ、風船、ボールをプレゼントされ、大喜びでエルセラーンの皆様と遊んでいました。冬は冷え込む地域のため、ジャケットのプレゼントもありました。



◆ チュンホア小学校
ソイチン分校
鳥居素子キャプテン様

9月6日、北部のクアンチ省で、開校式が行われました。鳥居キャプテンは、「子供の無垢な笑顔が、私たちを嬉しい気持ちにさせ、こういう喜びの連鎖が世界平和につながるのではないかと思います。学校が新しくなると、何かが変わっていくという期待が膨らみます。」と仰られていました。『アイアイ』『シャボン玉』など、息の合った演奏を披露され、ピアノなどの楽器、他にも子供たちにカバンと文具も支援して下さいました。



ラオス 川を越え、竹の小橋を渡った先に…

8月、ラオスは雨季の真っ只中。いわゆる“悪い時期”に訪問することは、現地の最も大変な状況を知ることです。特に大雨が続いた今年の8月末、理事長がチャンパサック県の7つの候補校を視察しました。

舟で川を渡し、お尻を打ちながらトラクターに揺られ、村人手作りの橋を渡り、ぬかるみに足をとられながら田んぼの中の道を歩いたその先に、新しい学校が出来る日を、希望を持って待っている子供たちが居ました。

ファイサファ小学校は、30年前に村人が手作りした校舎です。毎年、壊れたところを手直ししながら、子供たちが学んでいます。この学校で16年間奉職している熱血校長先生と、子供たちによりよい教育環境と、将来進む道を自分で選ぶことのできる教育を身につけさせたいと心から願う保護者達。

村人も、砂利集めや水汲みなどの建設作業協力を約束しています。

なんとか、この村を支援したい！と胸に新たな炎が燃え続けます。



認定NPO法人 アジア教育友好協会 AEFA (アエファ)

Asian Education and Friendship Association

〒105-0014 東京都港区芝3-3-10 芝園オーシャンビル8F

TEL 03-6426-0720 FAX 03-6426-0721 Email: asia@nippon-aeffa.org

URL: <http://www.nippon-aeffa.org>

Supported by
日本財団
THE NIPPON
FOUNDATION